

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300167		
法人名	有限会社 佐香		
事業所名	グループホーム 四季彩 ひまわり棟		
所在地	島根県出雲市灘分町204-2		
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ケーエヌシー		
所在地	松江市黒田町40番地8		
訪問調査日	令和4年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は旧平田市の斐伊川土手の田畑や住宅などに囲まれた穏やかな環境のもとにあります。基本理念は「ゆっくりと 何度でも繰り返し その人らしい穏やかな暮らしをともに彩れるケアに努めます」ひなまつり会、花見、七夕会、四季彩まつり、紅葉見学、クリスマス会、新年会など都度ご利用者の状況に合うよう工夫をしながら季節を感じていただける行事を行っています。日々のレクリエーションの他、気候の良い時には、ご近所の作られた畑や花壇を眺めながら散歩を行っています。地域の方には挨拶をしていただいたり、防災訓練に参加していただいたり年間を通して暖かく見守っていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、斐伊川の土手に広がる田畑と眼下に見渡す民家に囲まれた地形に位置し、北方には島根半島を一望する穏やかな自然環境の中に立地している。職員は、ゆっくりと何度でも繰り返し、その人らしい穏やかな暮らしをともに喜び新たな生活を整え支援する基本理念を意識づけ、利用者本位にサービス提供を実践している。コロナ禍では、「雑祭り会・七夕会・四季彩まつり・クリスマス会・新年会」などが工夫されて、季節感ある行事を実践している。日々の暮らしでは、レクリエーションを楽しみ、気候の良い日に近隣の畑や花壇を眺めながら職員が付き添い散歩をし、途中では地域住民と「挨拶」を交わす関係が深められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を共有し実践している	理念は、玄関ホールが目につく場所に掲示され、会議の中で話し合い意識づけを行い、利用者は自分のペースでゆっくりとした生活が送れるように理念をもとに対応されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、現在は交流を行っていない	普段は地域との繋がりは継続されていたが、コロナ禍では地域との交流は行っていない。現在は散歩の途中で挨拶を交わす程度である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり現在は行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催される会議において活動報告、意見交換を通じ、サービス向上に努めている	新型コロナウイルス感染症禍では、書面会議を工夫して、利用者の暮らしの様子をや行事等を会議のメンバーに相談等告知を行い、意見等返して貰い、ケアの質向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り指導、助言を仰いでいる	市との協力関係は、生活保護・後見人事務的な事柄、不明な事案等の相談を行う等の連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議での話し合いやチェックシートを利用し身体拘束のないケアに努めている	身体拘束研修に参加の職員が中心となり内部研修を行い共通理解を深めて三カ月に1回身体拘束検討会議では、拘束は駄目の意識づけに努めている。外出願望者には職員が付添い玄関の施錠は日中はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議での話し合いや、チェックシートを利用し虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	知識が不足している為今後活用できるよう学んでいかなければならない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明により不安や問題点を解消し理解をいただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアや会話などから要望を読み取れるようにしている。承った意見要望が反映できるよう努めている	計画作成担当者の要望や意見などの把握に努めている。家族の面会時に近況報告が行われて要望等を傾聴している。意見要望等は運営に反映される機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者に出された意見・要望は反映されている	月1回棟会議を経て開催の職員全員の合同会議に代表者は出席し、トイレ問題等や備品整備等の提案等を話し合い、必要に応じて運営に反映させ、報告等を経営者に上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は随時職員の意見を聞き、必要に応じて会議の議題として挙げるようしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部での研修を受けることはほとんどない。施設内での研修は少ない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為同業者との交流の機会はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声に耳を傾け安心して暮らしていただけよう努めている。思いを表現できない方においても感じ取れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に耳を傾け信頼関係を保てるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの重要度、優先度を考慮し最適な対応となるよう心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士、相手の身になって対応し、信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族が協力し本人を支えていける環境作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出、面会はできていない	友人や近隣の人は電話を使用して窓越し面会を行い、利用者との馴染みの関係は継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者間でのトラブルが起こらないよう配慮、利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応していく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人の希望や意向を確認し、家族の要望も聞き対応している。聞き取りが困難な場合は家族に相談したり本人から感じ取りながら検討している	利用者の「やりたい事・食べたい物等」自分で決定できる機会を多く持ち、ゆっくりと話ができる環境を作っている。意思決定が難しい利用者は、ケアをする中で家族や本人の生活経験から思いを感じ取り本人本位に話しあって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報をもとに職員間で情報を共有し、利用者の性格、生活環境を考慮したケアを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や様子の観察から現状の把握に努めている。個人記録に1日の様子、活動を記録し情報を共有し適切なケアに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、会議での話し合いやモニタリングを利用しより良いものを提供できるよう努めている。	利用者の現状を把握し、各棟のリーダーやケアプラン作成担当者が中心となって必要の都度家族に相談をして話し合い、看護師・主治医の意見も反映して、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し情報共有を図りより良いサービス提供に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズとウォンツを満たせるよう職員間で話し合い柔軟に対応できるよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については検討の必要がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、訪問看護師と連携し適切な医療を提供できるよう努めている	かかりつけ医の受診継続は、家族付き添いの通院や協力医の往診、訪問看護師など適切な医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し病気の早期発見、治療、健康増進となるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互に情報提供をし病院関係者と連携し利用者にとって最良の対応ができるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合事業所の出来ること、出来ないことを説明し方針を決めていく。終末期の在り方については職員に対し研修や周知が必要	入所時には看取りに関する指針の説明を家族等に行っている。数年前に看取りを行った経験があるので、経験を活かす看取り研修を今現在行いながら職員全員で取り組んで行く予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間共に急変時対応マニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災(年2回)、水害を想定して避難訓練を行っている。	火災避難誘導訓練は年2回の内夜間想定を消防署と連携し地域の協力を得て行っている。水害避難誘導訓練は指定避難場所に避難をしている。、現在はコロナ禍のため訓練を控え、職員のみで工夫して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、利用者が不快な思いをされないような対応をしている	高齢者の尊厳を尊重するケアは、声掛けはゆっくりと他の人には聞こえないようにトーンも意識付けて、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定ができるよう働きかけている。希望を伺う場合は質問・返答は簡潔なもので答えやすい形をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調に合わせて自分のペースで過ごしていただけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の希望を尊重し衣類の選択をし、その人らしい身だしなみができるようにしている。衛生面にも注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューの提供をしている。コロナ禍の為に一緒に準備、食事、片付けは中止している	1週間のメインになる料理は決めて、誕生日や行事にちなんだ食事・バイキング等の料理は事業所で調理し、食事が楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は個々の利用者に合わせてものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の能力に応じて口腔ケアを行えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で確認し排泄パターンに合わせ声掛けしている。おむつ使用のほうもできるだけトイレ、ポータブルトイレを利用できるよう支援している	利用者のほとんどがリハビリパンツを着用している。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、サインを察知してそれとなく歩行を介助して、トイレ誘導を行う支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操など体を動かすようにしている。水分摂取も心掛けている。主治医、看護師と相談し適切な排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を考慮しながら週2～3回の入浴で清潔保持と気分転換を行っている	午前10時頃から入浴時間の希望を聞きながら2名から3名の入浴を支援している。利用者のタイミングによっては午後入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調や状況に応じて適宜休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の情報は個人ファイルに入れ、変更時は記録、業務日誌に記入し周知している。確実に服薬できるようチェックし、異常があれば主治医、看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や作業を通じてやりがいの創造と気分転換を図れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は散歩に出かけている。水害避難訓練時風車公園までのドライブや花見ドライブなどは希望者を募り出かけている	以前は、外出希望があれば家族と連絡をとって、花見・菜の花・チューリップ・紅葉等のシーズンには、季節ごとにドライブをお願いし、支援の協力を得ているが、コロナ禍では外出支援は現在控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族了解のもとお金の管理は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に添えるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を汲み取りながら心地よい空間作りと安全に配慮している	ホール等には季節感ある飾りや絵が掲示され、玄関には外出や行事等の写真が飾られて、生活感ある居心地よく過ごせる共用空間が配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事、お茶会時は席が決まっている。気の合う利用者同士、利用者同士のトラブルがないよう工夫している。ビデオ鑑賞時等は移動し思い思いに過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が塗られたカレンダーや写真、好みのものを飾り居心地よく過ごせるようにしている。安全で快適に過ごしていただけるよう配慮している	居室は使い慣れた家具・見慣れたテレビや本人にとって大切な物などが持ち込まれている。写真・人形・カレンダー等は本人が好みのままにレイアウトされ、居心地よく安全で快適に過ごせる居室が工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができることを安全に行える環境作りを心掛けている		